



IDF PRESS RELEASE

Brussels, 31 July 2018

IDFプレスリリース

2018年7月31日、ブリュッセル発

乳が持続可能な発展の中でスポットライトを浴びる IDFワールドデーリーサミット2018 Spotlight on Dairy in Sustainable Development: IDF World Dairy Summit 2018

10月15－19日に韓国はテジョンで開催される酪農乳業界で最高の行事、IDFワールドデーリーサミットに世界から1000名以上の代表団が集う予定である。「酪農乳業を次の世代に」を大会テーマにしている。

サミットは、潘 基文（パン・ギムン）前国連事務総長 H.E. Mr. Ban Ki-moon による「国連持続可能開発目標と望まれるグローバルデーリーの役割」と題した基調講演で始まる。コーデックス食品規格委員会事務局長 Tom Heilandt 氏は地球規模の協力によるスタンダード（規格）開発について講演する。国際獣疫事務局(OIE)科学及び新技術部長 Elisabeth Erlacher-Vindel 氏は抗生剤の慎重な用法について講演する。国連食糧農業機関（FAO）畜産健康部長 Berhe G Tekola 氏は、世界の食品市場と乳製品の役割に照準を当てる。

開会講演の後にはワールドデーリーリーダーズフォーラムで「*将来の酪農乳業への考察とビジョン：技術、新興市場およびアジアの現状を考慮する*」を吟味する。ジュディス・ブライアンス IDF 会長が議長を務める。Maeil Dairy 社長 Seon Hee Kim 氏、蒙牛乳業社長盧敏放先生 Minfang Lu が講演する。

「IDFワールドデーリーサミットは、科学的な知見を広める重要な酪農乳業の行事であり、参加者に世界の同業者や一流の専門家とアイデア、学習および最高の規範を共有する独特の機会を提供します。その中でIDFは、競争力、スタンダード（規格）および主要要素に関する見識を共有して、酪農乳業界が安全かつ栄養豊富で持続可能な乳製品を継続的に生産できる営みを手助けします。」ジュディス・ブライアンス会長は述べ

た。

「私たちが営む政治、社会、技術および規制環境に直面する変化の大きさに照らせば、ワールドデーリーリーダーズフォーラムは、乳業会社の最高経営者CEOが参集して、彼らの事業経験に裏打ちされた業界の将来とチャレンジ・オポチュニティへの洞察から学べる稀有な機会です。」と、同会長は附言した。

この年に1度のサミットでは、ジャン・マーク・ドロール **Jean-Marc Delort** IDF 科学計画調整委員会委員長が議長を務める「次の10年」全体セッションが企画されている。このセッションで **Kyung-soo Chun** ソウル大学名誉教授が「酪農乳業の社会・人文学的な熟考」と題した全体講演を行う予定である。

サミットの2日目は、**Zuivel NL** 社 **Jurgen Jansen** 氏による IDF 世界の酪農情況 2018 の概要報告で始まる。伊利集団の **Mingyu Yang** 氏が中国の酪農乳業の現状を述べる。また全米生乳生産者連盟の **Jim Mulhern** 氏が米国の農業貿易政策の概要を講演する。

新興地域における市場機会という分野では、アジア、アフリカおよび南米をカバーする地域的な観点を取り扱う予定である。インド全国酪農開発公社の **Nirajan Karade** 氏、**FEPAL** の **Ariel Londinsky** 氏およびケニヤ **ESADA** の **Peter Ngaruiya** 氏が自国や自らの地域にある酪農乳業の状況を概説する。

「グローバルな乳の専門家」と題する IDF フォーラムの議長となり、昨今の課題や業績を検証するキャロライン・エモンド IDF 事務総長は、サミットは素晴らしい交流の土俵となると語った。

「酪農乳業分野における世界の指導的な専門家が韓国に集結し、デーリーバリューチェーンを通して有益な知識と経験を共有します。」と述べた。「この交流網で一役買っていただければ、この躍動的な業界に従事する全ての者に潤いを与えます。」

「乳製品マーケティング」、「生産革新」、「食品安全と規制」、「ICTを用いるスマート農場経営」、「栄養と健康」もサミット5日間の演目となっている。乳業会社の工場見学を含むテクニカルツアーも用意されている。詳細は IDF ワールドデーリーサミットのプログラムをダウンロードしてください。

<https://www.fil-idf.org/wp-content/uploads/2018/07/Programme-IDF-World-Dairy-Summit-15-19-Oct.pdf>

完

翻訳：J I D F 事務局

编者注: 仮訳の正確性、完全性、有用性等についてはいかなる保証をするものではありません。参考資料として扱い、内容に疑義が生じた場合は英文の原文をご確認ください。